

授業科目名	芸術文化・観光プロジェクト実習 3	担当教員	大社 充 岡元 ひかる 近藤 のぞみ 石井 路子 小林 瑠音 田上 豊 野津 直樹 崔 光雄 小畑 克典 小島 寛大 河村 竜也 安藤 竜 深澤 南土実
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	3 年 第 2 クォーター		
講義内容	芸術文化・観光プロジェクト実習 1 および 2 で修得した基礎的知識・技能を踏まえて、芸術文化・観光プロジェクト実習 3 では、芸術分野および観光分野に関連させたプロジェクトに、企画運営スタッフの中心として参画する。これにより、芸術文化および観光の両分野に必要な知識と技能を修得し、さらに専門演習や将来の進路と結びつけ、自らの関心分野に即して新たな企画提案ができるようになる。 また、実習 1 および実習 2 の実習生のコーディネートを行うこともある。得られた主体的な共創の経験をもとに芸術文化と観光の双方の視点から新たな企画提案を行えるように導く。		
到達目標	① 芸術文化および観光の両分野に必要な専門的知識と技能を身につけることができる。 ② 国際的な演劇祭の企画運営スタッフとしてリーダー的な役割を務めることができる。 ③ 自らの関心、強みを生かし、次年度に向けて芸術文化と観光の双方の視点から新たな企画を提案できる。		
授業計画	事前学習として、実習先となる芸術文化・観光プロジェクトに関して概要を理解した上で、実習指導者との顔合わせののち、実習計画を作成する。 実習現場として参加するプロジェクトについては、各プロジェクトに個別に参画するだけでなく、各プロジェクト間を媒介するアイディアと、それを実現するスキルの発見および開発に最大限の関心を払う。 実習中は、実習指導者等による指導を受けることで、現場の中心スタッフとしてプロジェクト運営に従事し、芸術文化と観光の双方の視点から主体的な提案を行いながら、具体的な実務を行う。その際、実習 1 および実習 2 の学生のコーディネートを行い、プロジェクトリーダーのための資質を磨く。その間、日報を記録し、適宜実習指導者から指導を受ける。 中間時点および最終日には、芸術文化と観光の双方の視点から学生による報告会を実施し、演劇祭主催者等との意見交換会を実施する。 実習後に完了報告書を作成し、実習で得た経験と知識を総括する。		

事前・事後 学習	実習計画の作成、実習日報の記録をふまえて中間・最終報告を行う。
テキスト	特になし
参考文献	授業内で適宜紹介する。
成績評価 の 基 準	実習の態度（40%）、日報（30%）、実習報告書・プレゼン（30%）
履修上の注意 履修要件	芸術文化・観光プロジェクト実習2又は海外実習を履修済みであること。
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	定員超過の場合は、志望理由等をもとに選考する。 芸術文化・観光プロジェクト実習4との同時履修が望ましい。